

平成30年度ヘルスプランぎふ21推進会議 地域・職域連携推進部会 議事概要

- 1 日時 平成30年9月14日(金) 午後1時30分～3時30分
- 2 場所 岐阜県庁議会棟2階 第2面会室
- 3 出席者 10人

	団体名	職名等	氏名	備考
1	岐阜大学大学院	准教授	井奈波 良一	欠席
2	岐阜県医師会	副会長	池田 久基	欠席
3	岐阜県医師会	常務理事	堀部 廉	
4	岐阜県歯科医師会	専務理事	長瀬 好和	
5	岐阜県商工会議所連合会	専務理事	山田 英治	欠席
6	岐阜県商工会連合会	専務理事	岡山 金平	欠席
7	岐阜産業保健総合支援センター	副所長	片桐 正文	
8	岐阜労働局労働基準部	主任地方産業安全専門官	宇都宮 良三	代理
9	ぎふ総合健診センター	専務理事	上村 博幸	部会長
10	岐阜県国民健康保険団体連合会	健康推進課長	松原 由真	
11	健康保険組合連合会岐阜連合会	常任理事	新藤 俊之	
12	全国健康保険協会岐阜支部	企画総務部長	加藤 尚美	
13	岐阜県市町村保健活動推進協議会	保健師副部会長	和田 礼子	代理
14	岐阜県保健所長会	恵那保健所長	久保田 芳則	

4 事務局 4人

1	保健医療課健康推進室	室長	赤尾 典子	
2		課長補佐兼係長	牧村 義和	
		技術課長補佐兼係長	井上 玲子	
3		主任技師	小川 麻里子	
4		主事	田中 美香	

■部会長選出

- ・委員互選により上村部会長選出

■内容

(1) 報告事項

- ア 第3次ヘルスプランぎふ21について
- イ 県民健康実態調査について
- ウ 圏域別地域・職域連携推進事業の実施状況について
- エ 岐阜県がん対策の推進について

<意見>

- ・医療保険者により健康課題が異なる。医療保険者によっては健康管理の難しさがあり、健康管理者の配置等、健康管理体制の整備は必要である。
- ・職域では、被扶養者の健診受診率・保健指導実施率の低さがあり、もう一努力により健診の土俵にのせる働きかけが必要である。
- ・たばこの規制では、どこが実施主体を担うか難しいが、しっかり取り組むことが疾病の管理にもつながる。
- ・がん教育は、教育委員会との連携が非常に大切である。学習指導要領にたばこの依存性が明記されており、根拠に基づいた指導を共通して行うことが必要である。

(2) 協議事項

ア 清流の国ぎふ 健康づくり事業の推進について

<議事>

○職域の立場から

- ・メンタルヘルスや両立支援が主な取り組みとなる。健康に関しては健康診断の結果の有所見者に関するサポートやストレスチェックでの高ストレス者への面談を継続する。
- ・健康の確保だけでなく、働き方改革を推進することが全体の課題である。前年度4月に「新はつらつ職場づくり宣言」を開始し、現在300件近くの宣言がある。職場づくり宣言の中でも、健康確保に取り組むことは長時間労働やメンタルヘルスの抑制にも関係する大きな分野であり県事業と連携して取り組んでいきたい。

○保険者の立場から

- ・労働局や県の宣言を活用し、経済産業省の優良法人認定へ結びつけている。協会けんぽでは、健康づくりの取り組みを充実させるサポートを担っており、各地研修会等で事業主側の理解を得ている。
- ・事業主からのサポートがなければ健康経営は浸透していかない。
- ・県事業のターゲットがどこに絞るかが明確でないと、情報の多い中で、事業所が何に取り組めばよいのか疑問を抱くのではないかと。
- ・健康ポイント事業は、保険者インセンティブであり、これまでは市町村独自の取り組みであったが、県の後押しにより、健診や保健事業への参加が増加すると期待する。
- ・野菜ファーストプロジェクトでは、キャンペーンだけでなく、今後どのように取り組んでいくかを示してもらい、保険者としての取り組みを検討したい。

○地域の立場から

- ・がん健診や特定健診の受診率をどう上げていくか悩ましい。退職まで職場できちっと健診を受けていた方は国保移行後もスムーズに健診を受診している印象。
- ・健康に関心のある層とそうでない層の両極端に分かれている現状で、健康ポイント事

業の実施により少しでも健診受診等につながるとよい。

- ・企業との連携はないが、労働局とタイアップし禁煙や健康経営を推進している。高齢の方も長く、引き続き働いてもらうためには、健康経営は時代にあった取組みだと感じる。
- ・健康ポイント事業は、県民に分かりやすく取組みやすいと感じる。
- ・野菜ファースト事業により、野菜をとることの大切さを再認識できた。気が付いた人は必ず得する取組みとして考えていきたい。広く大衆に声をかけることは、手応えがないように感じるが、野菜ファースト事業は成果が得られる事業だと感じる。

○医療の立場から

- ・健康ポイントに参加することで、市町村国保では保険者努力支援制度の加点が繋がると感じた。
- ・ヘルスプランぎふ21をだれが中心となり推進するか。保健師はよく知っているが、他職種は健康づくりの情報を知らないことが多い。
- ・医療では、年齢を区切って対応していないため、高齢者対策やAYA世代対策なども当計画に位置付けて対応していただきたい。
- ・何かをきっかけにした禁煙は非常に成立しやすい。何のきっかけもないのに、禁煙することは依存性の問題もあり難しいが、歯周病も一つのきっかけであり、歯がなくなる前に取り掛ろうと、まずは減煙から始め、禁煙へとつながる方が多い。
- ・野菜ファースト事業では、野菜を一品、量を食べる重要性は理解できるが、高齢者では歯が悪くて食べられない等、良いことは分かっているにもかかわらず食べられないこともある。こういった対策を推進する上では、後方支援となるバックグラウンドとうまく連携し、目標を達成に向け周りの環境に少し目を向けられると、横のつながり、縦のつながりで広く意見をもらい、広く支援を交うことができるのではないかと。
- ・AYA世代には歯周検診がないため、18歳以降に急激に悪化する。歯科健診の切れ間ない健診を行いたい。市町村健診の中に組み込むことが一番早くかつ費用対効果が高いと感じており、また活動を広めることは医療費削減にもつながる。